

## 技術評価報告書

申込者：株式会社富士ボルト製作所 代表取締役社長 山崎富士夫  
東京都江東区亀戸一丁目13番27号

技術名称： フジアンカー一定着工法

当法人「建築構造技術審議委員会」において慎重審議の結果、2014年3月17日付けの技術評価書(SABTEC 評価 13-01)の通り、一般社団法人建築構造技術支援機構「建築構造技術検証要綱」で定めた技術基準と照らし合わせ、本技術は妥当なものであると判断されたことを報告する。

2014年3月17日

一般社団法人  
建築構造技術支援機構  
代表理事 益尾 潔

### 建築構造技術審議委員会

委員長	窪田敏行	近畿大学	名誉教授
委員	岸本一蔵	近畿大学建築学部建築学科	教授
〃	菅野俊介	広島大学	名誉教授
〃	田才 晃	横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院	教授
〃	中塚 侑	大阪工業大学	元教授
〃	三谷 勲	神戸大学	名誉教授

### フジアンカー一定着工法 専門部会

主査	三谷 勲	神戸大学	名誉教授
委員	中塚 侑	大阪工業大学	元教授



## 技術評価書

申込者：株式会社富士ボルト製作所 代表取締役社長 山崎富士夫  
東京都江東区亀戸一丁目13番27号

技術名称： フジアンカー定着工法

技術概要： フジアンカーは、こぶ付きスリーブ鋼管の成形後、申込者開発の機械式鉄筋継手（FD グリップ継手）と同様、スリーブ鋼管と鉄筋との圧着加工によって製作される機械式定着金物である。こぶ付きスリーブ鋼管は、FUJI こぶ成形機を用い、JIS G 3445 の機械構造用炭素鋼鋼管 STKM13A の末端をこぶ定着部として成形し、スリーブ鋼管と鉄筋との間が FUJI 油圧圧着機によって圧着される。FUJI こぶ成形機および FUJI 油圧圧着機は、フジアンカー製造用の専用装置である。

本工法の技術評価は、本工法実験および既往実験を基に、（一財）日本建築総合試験所・機械式鉄筋定着工法研究委員会「機械式鉄筋定着工法設計指針（2010年改定）」に準拠したフジアンカー設計指針（2014年）の妥当性について行われている。

本委員会は、一般社団法人建築構造技術支援機構「建築構造技術検証要綱」で定めた技術基準と照らし合わせ、下記の通り、本技術は妥当なものであると判断した。

2014年3月17日

一般社団法人  
建築構造技術支援機構  
建築構造技術審議委員会  
委員長 窪田 敏行

### 記

評価方法： 申込者提出の下記資料によって、技術評価を行った。  
フジアンカー定着工法 設計指針（2014年）および実験説明資料  
これらの資料には、本技術の目標性能達成の妥当性を確認した技術資料がまとめられている。これらの資料のほかに、フジアンカー標準製造要領書および専門部会資料が提出されている。

評価内容： 申込者提案のフジアンカーは、鉄筋母材の規格引張強さに相当する荷重を受けても損傷せず、本工法設計指針によって設計されるフジアンカーを用いた異形鉄筋定着部は、設計で保証すべき長期荷重時、短期荷重時および終局耐力時の要求性能を満足すると判断される。

## 技術評価内容

### 申込者

株式会社富士ボルト製作所  
代表取締役社長 山崎富士夫  
東京都江東区亀戸一丁目13番27号

### 技術名称

フジアンカー定着工法

### 適用範囲

- (1) 建築物の構造 鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造、  
プレストレストコンクリート造およびそれらのプレキャストコンクリート造
- (2) 使用材 コンクリートの設計基準強度： 21 N/mm<sup>2</sup>以上かつ60 N/mm<sup>2</sup>以下  
鉄筋：（種類）SD295A, B, SD345, SD390、（呼び名）D13～D41  
フジアンカー： JIS G 3445（機械構造用炭素鋼鋼管）STKM13A
- (3) 適用箇所 柱梁接合部への大梁主筋の定着、柱梁接合部および基礎への柱主筋の定着、  
梁への梁主筋の定着、柱、梁および壁への壁筋の定着、梁への小梁主筋および  
スラブ筋の定着、アンカーボルトの定着

### 技術評価に際して行われた実験等の概要

本技術の妥当性を確認した試験および実験は、以下の通りである。

#### (1) フジアンカー強度試験

JIS G 3112 の竹節形状の異形鉄筋と組み合わせたフジアンカー試験片について、鉄筋母材の規格引張強さ以上の強度を有し、かつ、鉄筋母材破断となることを確認している。

#### (2) 梁主筋定着実験

梁主筋定着実験は、①定着金物種別（フジアンカー、摩擦圧接型）、②梁主筋直径（D22, D25, D29）、③梁主筋定着部の付着の有無を実験因子とした計10体について行われている。フジアンカーを用いた梁主筋定着耐力の妥当性は、上記の実験結果、ならびにネジ節鉄筋型定着金物およびフジアンカーと同種形状の円形定着板（摩擦圧接型定着板（12体）、EG定着板（4体））の実験結果を基に確認されている。

#### (3) ト形、T形、L形接合部実験

フジアンカーは、(2)項に示すように、フジアンカーと同種形状の円形定着板（摩擦圧接型定着板およびEG定着板）の場合と概ね同等の梁主筋定着耐力を有することが確認された。これらより、フジアンカーを用いたト形、T形、L形接合部は、既往実験を基に、フジアンカーと同種形状の円形定着板を用いた場合と同等の耐力を有することを確認している。

## 技術評価の主な審議事項

技術評価に際し、建築構造技術審議委員会での主な審議事項は、以下の通りである。

- 1) フジアンカー強度試験結果の妥当性
- 2) フジアンカーを用いた梁主筋定着実験の妥当性
- 3) フジアンカー標準製造要領書の妥当性

## 技術評価の経過

2014年1月29日開催の第14回建築構造技術審議委員会(以下、本委員会と略記する)において、申込者提出の技術資料について検討し、詳細検討は、専門部会を設けて行うこととした。専門部会では、本委員会での指摘事項を踏まえて修正された技術資料について、慎重に審議を行い、結果を2014年3月17日開催の第15回建築構造技術審議委員会に報告した。

本委員会は、専門部会の報告について総括的な検討を行い、本技術は妥当なものであると判断した。

以上